

## オジロワシ（タカ科） 全長89センチ

昨年11月13日に大仙市に飛来したオジロワシ。

3月に入り、そろそろ繁殖地の北に向かって飛び立つ季節となった。オジロワシのつがいが越冬した、通称ナダラの斜面。ここから雄物川下流約2キロの右岸に、ニセアカシアの木が生えている。

毎年3月に入ると、この木の枝にオジロワシが現れます。すぐ下は川幅が広く、流れの緩やかな岸辺ではカモ類が羽を休めます。魚が主食のオジロワシであるが、カモ類も襲うことから、ここは狩場なのでしょう。

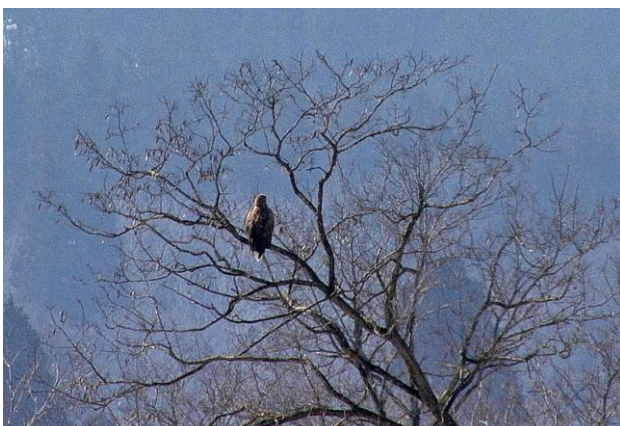


クチバシ先端が鋭く湾曲している。

豪雪となった今年であるが、堤防の上は殆ど積雪が無く車も通れるようになった。

ここから眺めるオジロワシは、背景もよく絶好の撮影ポイントである。まだ肌寒い季節ですが、朝日を浴びて体が温かくなったのでしょうか。

突然両翼を広げると、そのままの姿勢で約6～7分。初めて見る行動です。カワウが日光浴して羽を乾かす行動とよく似ていますが、気持ちよさそうに見えました。季節の分岐点である春分の日はもうすぐ。北に向かって旅立つ時が近くなりました。



3月に現れる、お気に入りの立木。



朝日が差し込んできた。

私は渡り鳥が北に帰っていくことを「北帰行」と思っていたが、間違いでした。

先ず、北帰行は何処の辞書にも載っていません。小林旭主演の映画、「北帰行より 渡り鳥北へ帰る」で歌われた流行歌の題名だったのです。原歌は旧制旅順高等学校の寮歌。



オナガガモも北に帰る頃でしょう。



日光浴をしているようだ。珍しい光景です。